

第53回札幌矯正管区教誨師研修大会（JKA競輪補助事業）

平成29年6月20日(火)～21日(水)

記念講演

演 題 子権侵害・親義務違反

～北海道家庭学校の子ども達～

講 師 北海道家庭学校

校 長

仁 原 正 幹 氏

研究会

- (1) 教誨を通して教えられたこと
- (2) 私の目指すべき教誨 ～人間復興を信じて～
- (3) 心に触れる教誨

研修の成果

矯正施設を出た人が再び犯罪に手を染める再犯及び再非行の防止が課題となっているところ、宗教教誨の原点をみつめつつ、被収容者との対話を通じて被収容者が「未来へ」と希望を持てる心を喚起させることが教誨師の使命あると思われる。

これを踏まえて今後の教誨活動の在り方を考えるに当たり、被収容者に寄り添った教誨活動を展開していく必要性から、児童福祉の分野で経験を積まれた方を記念講演の講師として招き、対人援助職としての対象者の見方、捉え方及び接し方について講演していただいた。児童福祉分野での自立支援の考え方の一つとして、児童本人の納得を積み重ねることにより自立支援を促すことが紹介され、矯正あるいは強制に依らない自立支援の在り方について学ぶことが出来た。

研究発表及び研究討議では、発表者の各教誨師は、実際の教誨の事例紹介及び効果的に教誨を実施していく上でポイントになるとと思われる点についての検討等を発表した。日頃、自分以外の教誨師がどのように教誨を実施しているか客観的に見る機会は少ないと思われるが、今般の研究発表及び研究討議はその一端を窺う機会となった。

教誨師は矯正施設における教化活動の一翼を担い、「世界一安全な国、日本」



をつくり上げることを願っているところであるが、研修大会を通じて、他の分野における知見を学び、互いの経験を共有し、もって今後の教誨活動の参考とすることができた。

研修全景



記念講演



研究発表（1）



研究発表（2）

